サークル同期と勃起我慢対決！おちんちんの目の前で女の子が・・・

大学のテニスサークルの旅行2日目の夜。山奥の古い温泉旅館の広い和室に、男女合わせて11人で集まった。畳の上に座布団がちらかり、テーブルの上には空になったビール缶とチューハイの缶が転がっている。酒が入って騒ぎは最高潮に達していた。

「もう一回乾杯ー！」「今日の頂上からの景色やばかったな！」

笑い声が響き、誰かがスマホで音楽を流し始める。俺は壁際に座ってビールをあおっていた。隣には柚穂。サークルに入って2年目になる彼女は、いつも明るくて面倒見がよくて、みんなから可愛がられている。でも俺の中では完全に「女友達」の枠。妹みたいな存在で、女として見るなんて考えたこともなかった。

酒が進むにつれて話題はだんだん下ネタに寄っていく。誰かが「あいつの胸デカすぎ！」とか言ったり、男子が下品な話を始め、女子がキャーキャー騒ぐ。俺も調子に乗って、つい柚穂に軽口を叩いた。

「なんかさ、柚穂って全然女として見れねーわ。男と同じって感じ？」

女子たちが「えー！」「ひどいー！」と野次を飛ばし、男子たちは「俊哉やべぇwww」と笑い出す。柚穂は目を丸くして、俺をじっと見つめた。

「……ひどーい！　俊哉くん、何それ！　私だってちゃんと女の子だよ！？」

頬がぷくっと膨らんで、ちょっと赤くなってる。酔ってるせいか、いつもより声が高い。俺はさらに煽るように言った。

「いやマジで。お前がどんなに裸で迫ってきても、俺、絶対反応しねえから。」

「はぁ！？」

柚穂が立ち上がる。浴衣の裾が少し乱れて、白い足がチラリと見えた。周りが「おおー！」と盛り上がる中、彼女は俺を指差して叫んだ。

「それ本気で言ってるの！？ 失礼すぎるんだけど！」

「本気だよ。本気中の本気」

俺も立ち上がって、にやにやしながら見下ろす。身長差があるから、ちょっと上から目線になる。柚穂は

悔しそうに唇を噛んで、すぐに反撃してきた。

「はぁ？本気になったら、お前なんかノータッチで勃起させられるわ！」

「は？ できるもんならやってみろよ」

部屋中が一気に沸いた。

「マジで！？」「勃起我慢対決キター！」「これは見ものだわ」

男子がスマホを構え始め、女子たちは「柚穂がんばれー！」と応援。完全にゲームの空気になっていた。柚穂は意地っ張りだから引か

ない。俺も男のプライドで引けない。

「じゃあ、まず脱いで。全部」

柚穂が真顔で言う。俺は一瞬固まった。

「は？ 俺が脱ぐの？」

「当たり前でしょ。脱がないと勃起したかどうか分かんないじゃん。丸見えにしないと意味ないよ」

周りの女子が「そうだそうだ！」「隠すとか卑怯！」と煽ってくる。男子たちはニヤニヤしながら「脱げ脱げコール」を始める。俺はため息をつきながら、渋々Tシャツを脱いだ。続いて短パン。最後はパンツも下

ろす。完全に丸出しで、部屋の真ん中に仁王立ち。